



# 学士課程に おける 科学教育の 未来

THE FUTURE OF  
SCIENCE EDUCATION  
AT UNDERGRADUATE LEVEL

会費無料 / 同時通訳あり

2009年9月25日(金) 14:00~18:20

京都大学百周年時計台記念館・百周年記念ホール

■カール・E・ワイマン講演：「21世紀の科学教育—科学のツールを用いて科学を教える—」

■パネルディスカッション：カール・E・ワイマン、坂東昌子、笹尾登

21世紀に向けて必要な科学教育をすべての学生に提供するためには何が必要なのか。

2001年ノーベル物理学賞受賞者で、世界の科学教育のリーダーでもあるカール・ワイマンと、  
教育に情熱を注ぐ日本の第一線の物理学者とが、自らの実践をふまえながら、  
科学教育の未来について語りあう。

■参加申し込み方法 **\*締切：2009年9月10日(木)**

高等教育研究開発推進センターHP (<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/>) より  
参加申し込みフォームをダウンロードして、メール(添付ファイル)にてお申し込みください。

\*情報交換会の参加の有無(参加費5,000円)をお知らせください。

■申し込み・問い合わせ先

京都大学教育推進部総務グループ e-mail: [soumu88@mail.adm.kyoto-u.ac.jp](mailto:soumu88@mail.adm.kyoto-u.ac.jp)

主催：京都大学高等教育研究開発推進センター

共催：京都大学理学部、京都大学グローバルCOE「心が活きる教育のための国際的拠点」

協賛：京都大学FD研究検討委員会

Carl E. Wieman

ブリティッシュ・コロンビア大学  
カール・ワイマン科学教育イニシアティブ教授。  
2001年に、ポーズ=アインシュタイン凝縮に  
関する研究で、E・A・コーネル、W・ケターレ  
と共にノーベル物理学賞を受賞。2007年より、  
古巣のコロラド大学に在籍しながら、カナダ  
のブリティッシュ・コロンビア大学で自分  
の名前を冠したユニットを立ち上げ、  
科学教育の研究と実践に情熱  
を注いでいる。

## 「学士課程における科学教育の未来」2009年9月25日(金)

■受付開始 13:30～

■開会挨拶 14:00～14:10  
京都大学総長 松本 紘

## 第Ⅰ部 カール・E・ワイマン 講演 14:10～15:30

「21世紀の科学教育—科学のツールを用いて科学を教える—」

科学が、過去500年の間にめざましい進歩を遂げたのに対し、科学教育は、中世以来のやり方からあまり変わっていない。だが、近年の学習に関する研究は、学生の思考と学習に関する誤解を明るみにするとともに、改善についてのヒントも提供してくれている。学習に関する研究とITを結びつけることで、21世紀に向けて必要な科学教育をすべての学生に提供するための舞台が整えられつつある。この講演では、これまでの科学教育の失敗と新しいアプローチによる成功について、認知科学の知見をふまえつつ議論する。

〈司会〉

・大塚 雄作：京都大学高等教育研究開発推進センター教授

## 第Ⅱ部 パネルディスカッション 15:45～18:15

〈パネリスト〉

・カール・E・ワイマン

・坂東 昌子：「文系学生への授業経験」  
元日本物理学会会長、NPO 知的人材ネットワークあいんしゅたいん理事長、愛知大学名誉教授

・笹尾 登：「大学における実験教育—物理教育の経験からみた課題—」  
岡山大学教育研究プログラム戦略本部極限量子研究コア教授、  
京都大学大学院理学研究科教授（併任）

〈指定討論〉

・松下 佳代：京都大学高等教育研究開発推進センター教授

〈司会〉

・田中 耕一郎：京都大学物質—細胞統合システム拠点教授

■閉会挨拶 18:15～18:20  
京都大学高等教育研究開発推進センター長 田中 每実

■情報交換会 18:30～20:00  
百周年時計台記念館・国際交流ホール

